

ヤフー、Twitter Japan、J-WAVE、森ビルが「第2回ソーシャル防災訓練」を開催 ～「渋谷駅周辺帰宅困難者対策訓練」の一環として実施、本日から参加者を募集～

2013年1月23日

ヤフー株式会社

Twitter Japan株式会社

株式会社J-WAVE

森ビル株式会社

ヤフー、Twitter Japan、J-WAVE、森ビルが「第2回ソーシャル防災訓練」を開催

～「渋谷駅周辺帰宅困難者対策訓練」の一環として実施、本日から参加者を募集～

「第2回ソーシャル防災訓練」のURL: <http://emg.yahoo.co.jp/kunren/2nd/>

ヤフー株式会社（以下ヤフー）、Twitter Japan株式会社（以下Twitter Japan）、株式会社J-WAVE（以下J-WAVE）、森ビル株式会社（以下森ビル）はソーシャル防災訓練実行委員会を組織し、2月6日に、災害時にソーシャルメディアを効果的、かつ正しく利用していただくためのイベント「第2回ソーシャル防災訓練」を、渋谷区が東京都と協力して同日に行う「渋谷駅周辺帰宅困難者対策訓練」内で行いますのでお知らせします。

訓練では首都直下型地震が発生したと想定し、避難訓練を開始。ヤフーが提供する「防災速報」や、Twitterなど、ソーシャルメディアを活用して、途中のいくつかのアクシデントをくぐりぬけながら指定の場所まで避難していただきます。

昨年9月に行った、第1回「ソーシャル防災訓練」では、約100名が参加し、「ソーシャルメディアに関して、知識だけでなく訓練することが大事だと思った」など、いかに実践的な訓練が必要であるかの感想があがりました。前回のレポートは以下のURLから確認頂けます。

http://blogs.yahoo.co.jp/yj_pr_blog/23541499.html

第2回の訓練では渋谷区や東京都などと協力することで、より実際の災害時に近い状況での訓練

を実施いたします。前回の訓練では「ソーシャルメディアによる避難情報は、多くの情報に埋もれて見つけにくい場合がある」という課題がありました。これを受け、情報源を増やすためヤフーでは「防災速報アプリ」を使用し「避難情報」を実験的に配信していきます。また、より正確な情報を迅速に見つけられるよう、Twitter Japanではライフラインアカウントとして認証している東京都や渋谷区のTwitterアカウントのフォローを推進していきます。

また、インターネット上（被災していない想定）から避難訓練参加者（被災している想定）を支援する支援訓練プログラムも実施いたします。インターネット上からできる支援を自らで考え、ツイート（応募は不要）していただきます。

さらに当日は、J-WAVEがミニFM局を設置し、大規模災害時、インターネットにつながりにくい、といったケースを想定して訓練に関する正しい情報をラジオで提供します。

参加者は本日よりサイトにて募集します。応募資格は、Twitterのアカウントを開設されていて、当日Twitterや防災速報アプリにアクセスしながらイベントにご参加頂ける方に限ります。詳しくは以下のとおりです。

【「第2回ソーシャル防災訓練」の概要】

- 実施日時：2013年2月6日（水）9時00分～12時00分（受付は8時半から）
- 場所：渋谷駅周辺エリア（避難場所は、参加される方のみに当日お知らせいたします。）
- 主催：ソーシャル防災訓練実行委員会（ヤフー、Twitter Japan、J-WAVE、森ビル）
- 協力：渋谷区・東京都・渋谷駅周辺帰宅困難者対策協議会
- 対象者：希望参加者を募集（100名）
- 参加費：無料

【タイムスケジュール】

- 8時30分：受付開始（場所：日本アムウェイ本社ビル 1F 正面玄関）
- 9時00分～12時00分：
 - 避難訓練の内容、参加方法を説明。
 - 一旦解散し、東京都／渋谷区Twitterアカウントや「防災速報アプリ」に通知される大規模地震発生（想定）のお知らせを元に避難訓練を開始。
 - Twitter（ソーシャルメディア）、「防災速報アプリ」を活用して、避難情報を元に避難場所へ避難。
 - 避難中の様子や災害時、危険を感じる場所についてTwitterへツイートしながらゴールを目指す。

【各社の防災に関する主な取り組み】

- ヤフー：避難指示ならびに災害速報と被害状況のツイートをリアルタイムに確認できる「防災速報」の提供
- Twitter Japan：信頼できる情報を得るために役立つ認証済みアカウントの拡大、ライフラインアカウント検索の拡大
- J-WAVE：ラジオの常備必要性の啓発及び
在京ラジオ7局による災害時のライフライン情報「ラジオライフラインネットワーク」への参加
- 森ビル：安全な一時滞在施設の提供および施設周辺の正確な情報提供

ソーシャル防災訓練実行委員会は、これからも「ソーシャル防災訓練」を継続的に実施し、災害時のソーシャルメディア活用と、正しい情報取得方法の啓発に努めていきます。